

### シンポジウム 3

#### 「AI を用いた消化管診療の現状と課題」

司会 藤城 光弘（東京大学大学院医学系研究科消化器内科学）

三澤 将史（昭和大学横浜市北部病院消化器センター）

ディープラーニング登場以降、人工知能（AI）技術は急速に進歩し、実臨床において使用されるようになってきた。

消化管診療において AI は、病変の検出、鑑別、検査の質の担保、炎症性腸疾患の活動性評価、癌のリンパ節転移予測など幅広い領域での有用性が報告されている。本セッションでは消化管診療における AI の有用性だけでなく、費用対効果、負の側面など幅広く取り上げ、AI の現状と課題について整理したい。